地域のパートナーとともに

三菱日立パワーシステムズ

執行役員 日立工場地域統括 福田　寿士氏に聞く

火力発電事業の世界No.1へ

サービス事業・海外案件伸ばす

―会社発足から1年半がたとうとしている。

「2014年2月、三菱重工業と日立製作所の火力部門が統合して発足し、1年半弱が経過した。もともとライバル会社である2社だが、火力発電システム事業のグローバル市場におけるNo.1を目標に掲げており、米ゼネラル・エレクトリック(GE)や独シーメンスなどとの国際競争に打ち勝つために日々取り組んでいる」

「昨年は国内市場が活発で、ボイラーや蒸気タービン、大型の石炭火力発電プラントといった製品の受注案件がうまくいった。中型の産業用発電機なども堅調で、全体として受注目標を達成することができた。海外案件についても着実に注文をいただいているところだ。もう一つの大きな柱であるガスタービンコンバインドサイクル（GTCC）に関してもまずまずの結果を残すことができたほか、新設プラントのメンテナンスや改造提案といったアフターサービスについても順調だったと言える」

「中長期的な目標としては、2020年に事業規模2兆円を目指すということをこれまでにも申し上げている。本年度から、中期事業計画をスタートさせた。大きな目標に向けて一丸となって取り組みたいと考えている」

―社内の連携についてはどうか。

「昨年は、両社で仕事のやり方などを合わせていくことに注力した。大分実現されてきており、良いスタートが切れたと思っている。共存の道を探る上で、まずは相手のことを理解することが重要だった。技術的な部分、仕事の仕方や仕組み、使用する用語表現の違いなどもある中で、自分たちのやり方のほうが優れているという立場に立たないよう心掛けた。このほか、社長の西澤が各工場に足を運んで実務に携わる社員から話を聞いて回るタウンミーティングを実施するなど、コミュニケーションの場を積極的に増やしている。日立工場に関しては、日立製作所の元社員が中心だが、三菱重工から来た社員もいる中で、双方の良いところを取り入れながらシナジーを生み出していきたい」

―会社全体の中での日立工場の役割は。

「日立工場で手がけるのはガスタービン、蒸気タービン、発電機などで、制御装置関係は日立工場の強みと言える。ガスタービンについては高砂工場（兵庫県高砂市）では大型、日立では中小型のガスタービンを作っており、ラインアップをそろえて世界とも戦っていける。蒸気タービンについても、ラインアップが重なる他工場もあるが、お互いの持っている生産能力をフル活用してより強い製品を目指す。発電機についても同様に伸ばしていくなど、日立工場の特徴を生かしてやっていきたい」

―海外案件の状況はどうか。

「地域によっては火力発電が伸び悩むこともあるが、全体としては新興国を中心に伸びてきている。昨年は国内が好調だったが、これからは海外市場により目を向けていかないといけない。現地のニーズをしっかりと把握した上でそれに応えられるような製品の開発を進めていく。海外市場の火力発電に関しては、その国の電力需要の度合いによって規模をどうするかをその都度考えなくてはいけない。新興国にいきなり大規模なプラントを設置するわけにもいかないので、日立で製造する中小型ガスタービンを利用したプラントへのニーズもさらに伸びていくと期待している」

―今後力を入れるというサービス事業については。

「以前よりもサービス事業に人員を割くようになっており、従来型のサービスに加え、情報通信技術（ICT）などを取り入れたり、三菱重工と日立製作所がそれぞれサービス事業で強みとしてきたノウハウを互いに生かしたりといった工夫でサービスの充実化を図っていく。これによってサービスの新しい分野を開拓し、既存ビジネスとの両方に取り組んでいく。ICTを導入することで顧客との情報共有などもできるようになり、より正確に装置の状況を把握してアドバイスにつなげるなどが可能になる」

―地域とのかかわりについてはどうか。

「地域とのつながりを大切にしていかなければいけない。私たちが一番貢献できることは、やはり地域のパートナーと一緒になって競争力を上げていくということだ。私たちの工場での仕事を充実していくことが地域への貢献にもつながる。これまで以上に事業規模を伸ばしていくことによってそれが達成できる」

「地元パートナー企業の皆さまとは今後もより良いお付き合いをさせていただきたいと思っている。ただもちろん競争は生まれていくとは思う。地元に仕事を増やせるかどうかは、私たち自身が受注をどれだけ取れるかにかかっているので、私たちとしても努力していきたい。そのために、協力企業の皆さまの意見をよく聞いて、コスト低減や納期の短縮化などについての新しいアイデアを取り入れながらともに事業を伸ばしていきたい」

「地域創生の知の拠点」をめざして

茨城大学

三村信男学長に聞く

県内大学・高専で連携 教育・研究をつなぎ地域へ提供

―地域社会との連携事業の状況はどうか。

「茨城大学の使命は、持続可能な地域づくりの知の拠点になることだと考えている。そのための柱が、地域や産業界を支える人材の育成と、地域の課題解決への貢献の二つ。昨年度、文科省の『地(知)の拠点事業（大学COC事業）』に採択され、地域志向の事業を全学的に強化しており、産学官連携や農業振興、地域の教育力向上など多面的に展開している」

「例えば、10年前に地域連携協定を結んだ県北部の常陸大宮市では、休耕地の活用、都市農村交流事業、伝統の農村歌舞伎『西塩子の回り舞台』のサポートなどを通じて、地域の方々と大学の教員、学生の連携を着実に深めてきた。継続的に行っているシンポジウムなどをきっかけに、『常陸大宮市まちづくりネットワーク』という地域の組織も生まれている。また本年度は人文学部の西野由希子教授を、市の創生特別顧問として派遣しており、さらなる連携の深化、広がりが期待できる」

「また、5月に涸沼（ひぬま）がラムサール条約に登録されたが、水質の保全や生態系の保護につながる学術的な調査・研究はもちろん、地域の子どもたちへの教育が重要になる。地域の拠点大学としての本学が果たすべき役割は大きい」

―大学としてどのような人材を育成していくのか。

「我が国はグローバル化や国内の人口減少・地域衰退など激しい環境変化に直面しており、その中で社会の活力を維持していくためには、元気のある卒業生が必要だ。これまで日本の学生は『真面目だが、もうちょっと積極性が欲しい』と言われることがあったが、本学では、地域や職場の課題を発見しその解決に挑戦するマインドをもった学生を育てたい」

「本年度から『茨城学』という授業を全学部の1年次の必修科目として開講している。本学教員だけでなく、自治体の担当者も講師を務め、受講生とともに茨城が抱える現場の問題に向き合い、主体的に議論をするアクティブラーニングを取り入れた授業となっている。こうした教育活動を通して、地域の課題とグローバルな問題を結びつけて考える視野と、課題発見・解決能力、プロジェクト企画能力をもった学生に成長してほしい。そのためには、専門分野における十分な学力とともに、英語を含むコミュニケーション力、他の人と取り組む協働力が重要だ」

―今年3月に設立された「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」の概要と狙いは何か。

「茨城県は、県南部で東京圏のベッドタウン化が進む一方で、県北部の人口流出が過多になっており、地域力の低下が危惧されている。それらの課題に応えるため、地域の教育力向上、人材の育成、雇用と定着の促進、研究成果やシーズの還元、イノベーションの創出といった点での大学や高等専門学校への期待は高まっている。そこで、各学校の特色を生かしつつ、互いの教育・研究力をつないで地域へ提供することが有効だと考え、茨城大学が発起人となって、茨城キリスト教大学、常磐大学、茨城工業高等専門学校とともにコンソーシアムを発足させた。7月4日には、県内の自治体、産業界の関係者にも参加してもらい、設立記念シンポジウムを本学講堂で開催する」

茨城学の初回講義には三村学長も登壇

―県内産業界との連携についてはどうか。

「就職後3年以内の離職率が増えている中、県内企業も人材のマッチングについてさまざまな課題を抱えており、地域の大学で育った学生の就職への期待が大きいと感じている。大学として、自治体とも連携しながら、県内の雇用創出・定着の流れをつくっていくことが急務だ」

「また、茨城の地の利、資源を生かしたイノベーションがますます求められる。本学も、東海村のJ―PARC(大強度陽子加速器施設)に隣接した環境で、地域特性を生かした量子線科学の研究・教育の推進を図っている。これらを活かし、産官学の連携による新たな地域産業の創出、また、イノベーションを生み出す人材の育成に今後も積極的に取り組んでいきたい」

学生同士のディスカッションも茨城学の特徴

火力発電・環境技術で
地球の未来を明るくする。

エネルギーと環境という地球規模の
課題解決に貢献することで
より多くの人々が豊かに暮らせる未来を築けるように。
私たち「三菱日立パワーシステムズ」は
経験豊富な人材、世界最高レベルの技術力、
幅広い製品ラインアップを結集し、
火力発電システム分野のグローバルNo.1プレーヤーを目指します。

〒220-8401　横浜市西区みなとみらい 3-3-1
三菱日立パワーシステムズ株式会社

三菱日立パワーシステムズ

シーズヒータ、加熱機器の専門メーカー
SHINNETSU
特注品、カスタマイズ品は当社にお任せ下さい。
新熱工業株式会社
〒311-1251　茨城県ひたちなか市山崎 141-5　http://www.shinnetsu.co.jp

株式会社 ジェネシス
代表取締役　矢ノ倉 敏巳
〒311-0118・茨城県那珂市福田1993－56
☎029-352-0201(代)　http://www.genesis-j.com

SEKISHO
Service 奉仕　Safety 安全　Sincerity 真心
関彰商事株式会社
つくばオフィス／〒305-0051　茨城県つくば市二の宮 1-23-6　TEL 029-860-5151
http://www.sekisho.co.jp/

技術相談をお受けします　無料
技術相談　●研究者の紹介、相談会（無料）
共同研究　●大学と共同で研究
受託研究　●大学に研究を委託
茨城大学社会連携センター
産学官連携イノベーション部門
tel.0294-38-5005
fax.0294-38-5240
ccrd-iu@ml.ibaraki.ac.jp
茨城大学
Ibaraki University

AES 衛星 "SOCRATES"
全ての目標を達成し、打上げ1周年を迎えました。
衛星はAES局にて順調に運用しております。
株式会社エイ・イー・エスは、航空宇宙で培った高品質・高信頼性
技術を基に、お客様のニーズにあったあらゆる分野における製品、
技術サービスを提供いたします。
株式会社エイ・イー・エス
〒305-0032 茨城県つくば市竹園 1-6-1
TEL:029-855-2001 FAX:029-855-9815
HP：http://www.aes.co.jp/